

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス



なんだかずいぶん色んなことがあった気がする一年でしたが、いよいよもってコミケットを取り巻く環境にも避け得ない変化が訪れてきた感があります。

これからどうなっていくのかは誰にも分かりませんが、今この時、今回のコミケットに参加していることを、精一杯大切に、アナタの心と記憶に刻んでおいて下さい！



■■冬!震える冬!それは…準備不足■■

冬コミが寒さも本格化する12月の末に開催される以上、参加するからには寒さに対する備えが必要不可欠であることは間違いない。

しかし、寒さは人によって、または装備によってかなり感じ方もその影響も違うものだ。

誰が何をしても暑い夏と違って、冬は準備と装備さえ適切であれば、寒さの影響を最低限に抑えこんで、むしろ快適に参加することが可能なのだ。

(『初めてコミケットに参加するなら夏よりも冬から』と言われるのもこれが理由だ)
コミケビギナーさんも、ベテランさんも、寒いのは仕方がないと思わず、自分に合わせた快適参加装備を考えてみよう。

——■アナタハ、ドコニイマスカ?■——

コミケットに限らず、装備というものは、どこに、どうやって行って、何をするのかという目的に応じて最適化していくものであって、その前提条件が変われば当然装備も変わってくるものだ。当然、一言で『コミケットに参加する』といっても、会場に到着する時間や一般参加者かサークル参加者かといった区分でも、当然天候でも、必要な装備は違ってくるだろう。最適な防寒、最適な装備を見つけ出すためにはまず、自分がどんな参加者なのかを知らなくてはならないのだ。

●でもその前に。基本のお話し

開催時期が12月の末である以上、当然基本的には寒い。しかし、関東の冬の寒さのピークは年明け以降であり、冬コミの開催時期のお台場は寒いには寒いですが、雪山や高地のように寒いわけではないという条件である。そうは言っても、待機場所の多くは風が冷たく、冷えきったコンクリートやアスファルトの上にいるだけで体温が奪われていくので、たとえ長い時間の待機ではなくても、防寒装備自体は必要だ。

コミケットに参加するということは、一種のウィンタースポーツやその観戦にでかけるのに似ているとも言える。待機があり、持久力が必要な密度の高い活動があり、往復の交通機関での移動がある。

しかし、少し参加のし方や目的を変えれば、家からビッグサイトまで行きさえすれば、会場はほぼ都心部で屋内だし、混んでいるとは言っても朝のラッシュ時の駅や電車程ではない。休日の行楽程度の準備でも十分に参加可能だとも言える。

つまるところ、(特に冬コミは)コミケットそのものが特段に過酷なイベントというわけではなく、その過酷さはアナタがコミケットの中で求める物次第だということは最初に認識しておくべきだろう。

——■アナタは、どの参加者?■——

カゼ薬のCMではないが、コミケットの参加者にはいくつかの傾向がある。それは、例え過酷な環境、条件に身を置いてでも欲しいモノをあくまで求めるタイプと、仕事柄とか若さとか単純に体力がとてもあるといった理由で、夏冬問わずコミケットの会場環境くらいなら特にしんどく感じないというタイプ、そしてその逆に、ガチ参加しようにも体がついていけないというタイプと、最初から自分の体力や余裕の範囲内でコミケットを楽しめばいいと考えるタイプだ。